「欅（けやき）」

鵜沼第一小学校のシンボル「けやき」

　鵜沼第一小学校といえば、「けやき」の木を思い浮かべる人が多くいます。
「けやきの木の下で遊んでいる時には、そんなことには気づかないけれども、小学校を離れて年月が経つと校舎は替わり、昔の物がなんにもなくなっていくような気がする中で、校庭に立てば少しも変わらないけやきが静かなたたずまいを見せているということは、なぜか、この世の中に頼ることのできるものがあると教えてくれているようで、心に安らぎを感じる。」
　このように、百周年記念誌にも書かれています。

　明治４２年４月、当時学校に勤められていたの栗木先生と五島先生が、「けやき」の苗木２本を役場からもらいうけ学校内に植えられました。「けやき一世」はそのうちの１本です。
　ある年、あまりにも大きく成長したため、中段から丸坊主に切られてしまったそうです。そして、校舎新築とも重なり、別の場所へ植え替えられました。
　ちょうどその年、五島先生が訳あってご退職となり、全校児童への言葉として
「今、私はあの欅のように切られて去って行くが、皆さんはいかなる困難にもまけず、欅の木が必ず芽を出すように、元気で立派な人になってください。」
と言われました。
　その言葉どおり、翌春には芽を出し、根を出してますます大きくなったそうです。
　この「けやき」は、時には運動場の真ん中になったり、体育館や校舎の窓ぎわになったりしましたが、どんどん成長して、高さ１５m、幹の太さ３mにもなる大樹となり、たくさんの枝と葉をつけて周りが暗くなるほどでした。
　そして大地震や台風にも倒れずに頑張っている堂々たる姿は、校区の人たちの心の支えになっていました。

　その「けやき一世」は昭和６１年に「二世」へとバトンタッチをし、現在も変わらず堂々たる姿を見せてくれています。

《参考》　「鵜沼小百年」：鵜沼小創立百周年記念事業百周年記念誌 編集委員会
「けやき」：昭和６０年度 鵜沼第一小学校 文集

運動場の真ん中にあった頃の写真

けやき一世でできた衝立(校長室)

けやき一世で作った壁飾り(けやきの部屋)

けやき二世　H26.4

父が子どもであったとき
母が子どもであったとき
やはりけやきをみあげたと
祈してくれた大木を
わたしはきょうもみつめている
祖父が子どもであったとき
祖母が子どもであったとき
やはりけやきをみあげたともであったとき
祈してくれた大木を
あの子もきょうはみつめている
かなしいことがあったとき
さみしいことがあったとき
やはりけやきをみあげては
ぼくの仲間が明るく歌い
わたしは仲間と手をつなぐ
うれしいことがあったとき
たのしいことがあったとき
やはりけやきをみあげては
ぼくの仲間が輪になって
わたしは壁の歌うたう

昭和四十九年三月二十五日